

再エネ電力の地産地消が本格始動

市内ため池の太陽光発電を活用 5月28日(水)に竣工式

今年3月1日から順次、市内にある招提新大池(招提東町3)と今池(招提中町2)の両ため池に浮かべたフロート式太陽光発電由来の電力を市内遊園地・ひらかたパークと商業施設のKUZUHA MALLに供給している。同事業は、地元や関係企業、市が協力して、市内のため池で発電した電力を市内で活用するエネルギーの地産地消を実現。ひらかたパークでは、全てのアトラクションを太陽光発電由来の電力で稼働できることになる。同事業開始に伴い、5月28日(水)午前10時30分から発電所竣工式を今池で行う。

★枚方市招提土地改良区、(株)環境資源開発コンサルタント、関西電力(株)、京阪ホールディングス(株)、市の5者が市内での「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」の実現に向け、「ため池を活用した再生可能エネルギーの地産地消の取り組みに関する協定」を昨年4月に締結し、招提新大池と今池の太陽光発電所の工事を昨年8月に開始。今年3月1日から順次稼働し、発電出力はあわせて約4,000kW。5者の関係性は以下の通り。

土地提供	枚方市招提土地改良区
発電事業者	(株)環境資源開発コンサルタント
小売事業者	関西電力(株)
電力需要地提供者	京阪ホールディングス(株)(ひらかたパーク、KUZUHA MALL)
事業推進者	市

★太陽光など自然エネルギーにより発電した電力を同じ地域内で使用することでCO₂排出の削減と、電源立地と需要地を近接させることで送電ロスを低減し、効率よく再エネ電気を利用する「再エネ電力の地産地消」を実現。ひらかたパークでは全体の年間消費電力量の約60%を、KUZUHA MALLでは約13%を再エネ電力でカバーし、年間あわせて約2,700tのCO₂排出量を削減できる見込み。なお、同パークでは「楽しく学べる遊園地」として、市内小学校の社会見学など環境教育の場としても提供していく予定。



ひらかたパーク



KUZUHA MALL

★メガソーラーは多くの太陽光パネルを敷き詰めるため、広大な敷地を確保する必要があるが、フロート式太陽光発電設備は、元々存在するため池を利用することで新たな場所の確保も必要なく、池の水によってパネルの温度上昇が抑えられ、発電効率が向上するというメリットがある。また、発電事業者が地元農業者からなる土地改良区に維持管理・修繕費用としてため池の水面使用料を支払うことで、ため池や周辺農地の保全にもつながり、地域課題の解決にも貢献できる。

★招提新大池および今池の発電所の竣工式
日時など：

5月28日(水)午前10時30分、
今池（招提中町2丁目1389-1）

出席予定者：枚方市招提土地改良区、
（株）環境資源開発コンサルタント、
関西電力（株）、
京阪ホールディングス（株）、市



今池太陽光発電所

<お問い合わせ>

環境部 環境政策課 ☎：050-7102-6009 FAX：072-849-1206
メール：kankyoseisaku@city.hirakata.osaka.jp